

「過去に目を閉ざす者は、現在にも盲目となる」

ドイツ連邦共和国大統領
リヒアルト・フォン・ヴァイツゼッカー

1985年5月8日（ドイツ敗戦40周年）
西ドイツ連邦議会での演説

ナチスに隷属を強いられた 精神医学

= 小児安楽死の犯罪 =

- ハンス・アスペルガーの時代 -

福岡市精神科医会学術講演 船津邦比古 2021年11月17日

ウィーン市立オットー・ワグナー病院

精神科、呼吸器科



115年の歴史を誇る美しいパヴィリオン(病棟+診療棟+管理棟)と緑地
だが、この敷地の一部に嘗て小児安楽死施設があった。

ウィーン市立オットー・ワグナー病院 その一部に小児神経科療養部門シュピーゲルグルントを設けた



南斜面に28の精神科、10の老人呼吸器科、3のシュピーゲルグルントのパヴィリオン
オットーワグナー教会(観光名所)、劇場、ショップ、看護学校

ウィーン市立オットー・ワグナー病院

精神科、呼吸器科



オットー・ワグナー教会。20世紀初頭のウィーン・アール・ヌヴォー建築。観光名所

ウィーン市立オットー・ワグナー病院 精神科、呼吸器科



水戸病院前理事長、水戸正樹先生と

オットー・ワグナー病院の一部に・・・小児養護施設 シュピーゲルグルント Spiegelgrund



オットー・ワグナー病院キャンパス中央近く、
安楽死政策の犠牲となった子供たちを悼み、
789本の灯火が今日も捧げられている。
背景は病院付属劇場

オットー・ワグナー病院に入院していた
多数の患者が安楽死施設に送られた。
ベッドが空いたパヴィリオンの幾つかを
小児精神科養護施設に変更し、1940年
シュピーゲルグルント Spiegelgrundと
命名された。当初から目的は小児安楽
死であった。1945年閉鎖。

対象とされたのは、先天性神経疾患、
精神疾患、脳炎後遺症、てんかん、等の
疾患を有する小児、不登校等問題行動
を有する小児、

1940～1945年の間、ウィーンと近隣
各地から1000人を越す子供がここに送
られ、うち789人が安楽死となった。

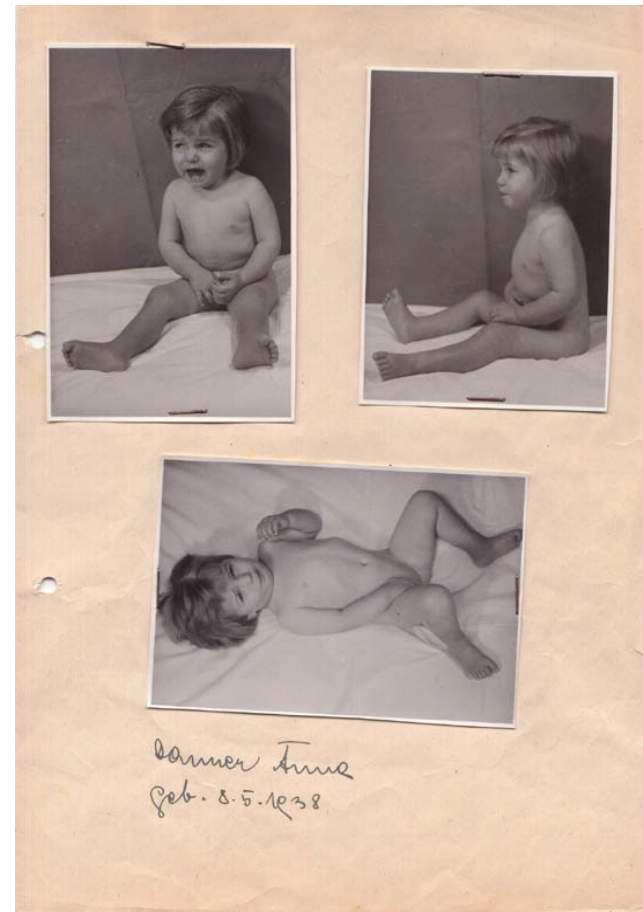
小児安楽死・・・シュピーゲルグルント／ウィーン



安楽死が行われたパヴィリオン・シュピーゲルグルント

勿論それは極秘であったが、外部の医師はうすうす気付いていたかもしれない。

1940～1942年ウィーン市立病院小児神経科にいたアスペルガー医師も、少なくとも数人の子供をシュピーゲルグルントに送ったとされている。記録が残っているようである。



4歳の少女、アンネマリー・ダナーもこの施設に連れてこられた。8カ月後に安楽死させられた。障害の内容は不明。家族には肺炎にて死亡と通知が来た

子供安楽死はT4作戦の一部であった

T4 = Tiergartenstraße 4

動物園通り4番地、ベルリン

= ナチスの(民族衛生学を根拠に)大量殺戮計画本部所在地(右上、右中図)



学問的根拠は優生学。全世界で19~20世紀に興隆。精神・神経疾患の遺伝を断ち切る。推奨されたのは断種、不妊手術。死に至らしめる必要は無い。



米国、英国(チャーチルは熱心な推奨者であった)、カナダ、フランス、ドイツ、日本など、多くの国で法学者、精神医学者がアカデミックな問題として提唱した。クレペリン、E. ブロイラーも熱心に主張した。

ナチスは無益な unbrauchbar 食い扶持を減らし、人材を国家建設に活用しようと考えた(左下図)。



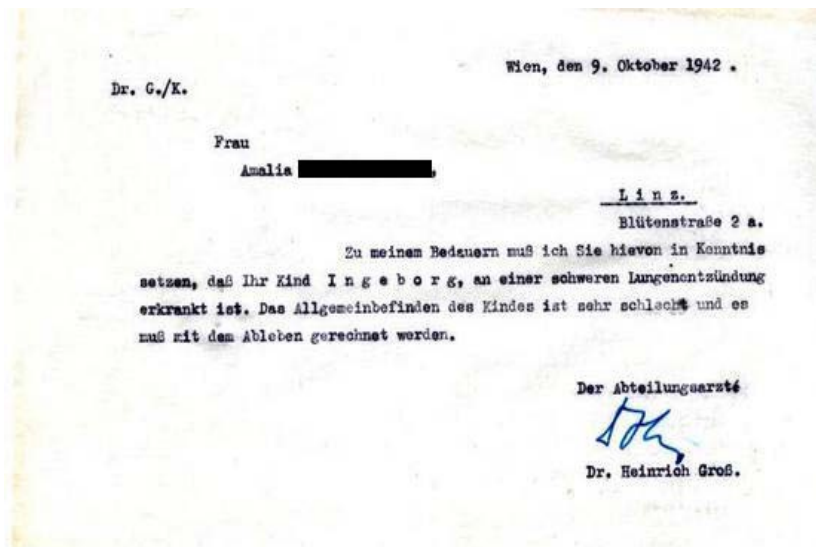
小児安楽死・・・シュピーゲルグルント／ウィーン

ABC News / Nightline 1998年 (米国) より引用



犠牲者の脳 417体

小児安楽死・・・シュピーゲルグルント／ウィーン

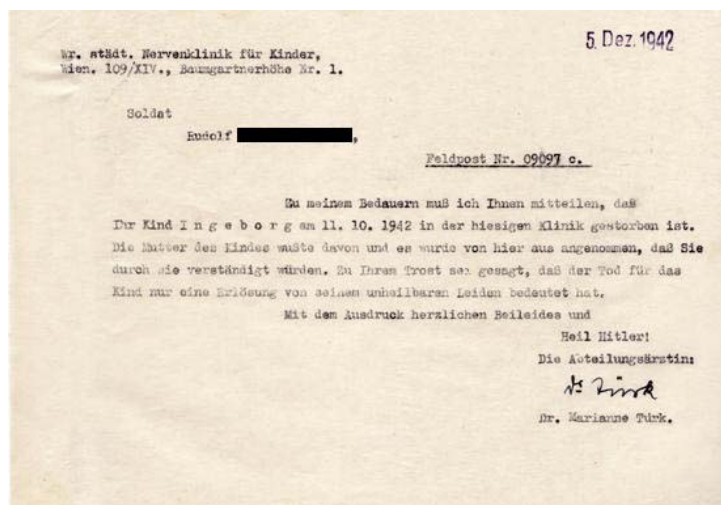


1942年10月9日

・・・あなたの娘インゲボルクは重度の肺炎に罹患し、全身状態は重篤で、死は免れないであります。

医師 ハイน์リッヒ・グロス

↑ ↓ チェク論文より引用



シュピーゲルグルント小児神経科病院

1942年12月5日

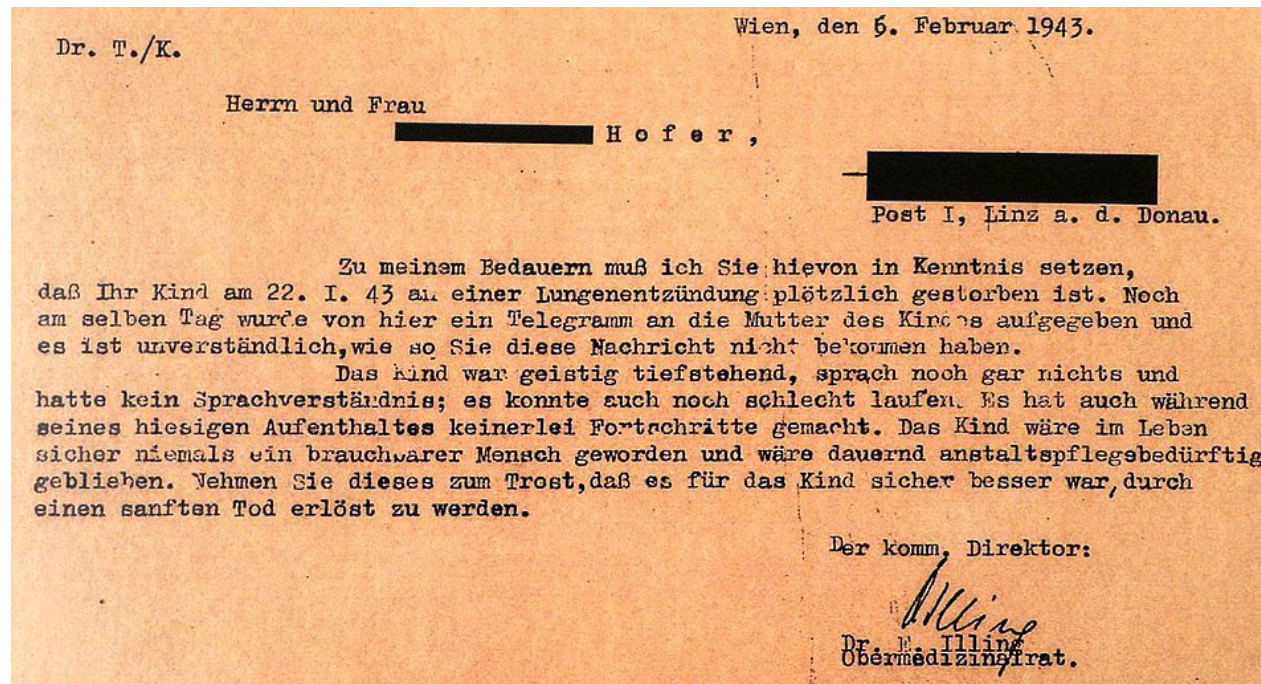
慎んで哀悼の意を表しつつ、お伝えしなければなりません。あなたの娘インゲボルクは当病院にて逝去されました。

・・・せめてもの慰めではありますが、死は不治の病に苦しむ娘さんを解放するものであります。

ハイル・ヒトラー

医師 マリアンネ・テュルク

小児安楽死・・・シュピーゲルグルント／ウィーン



ウィーン、1943年2月6日

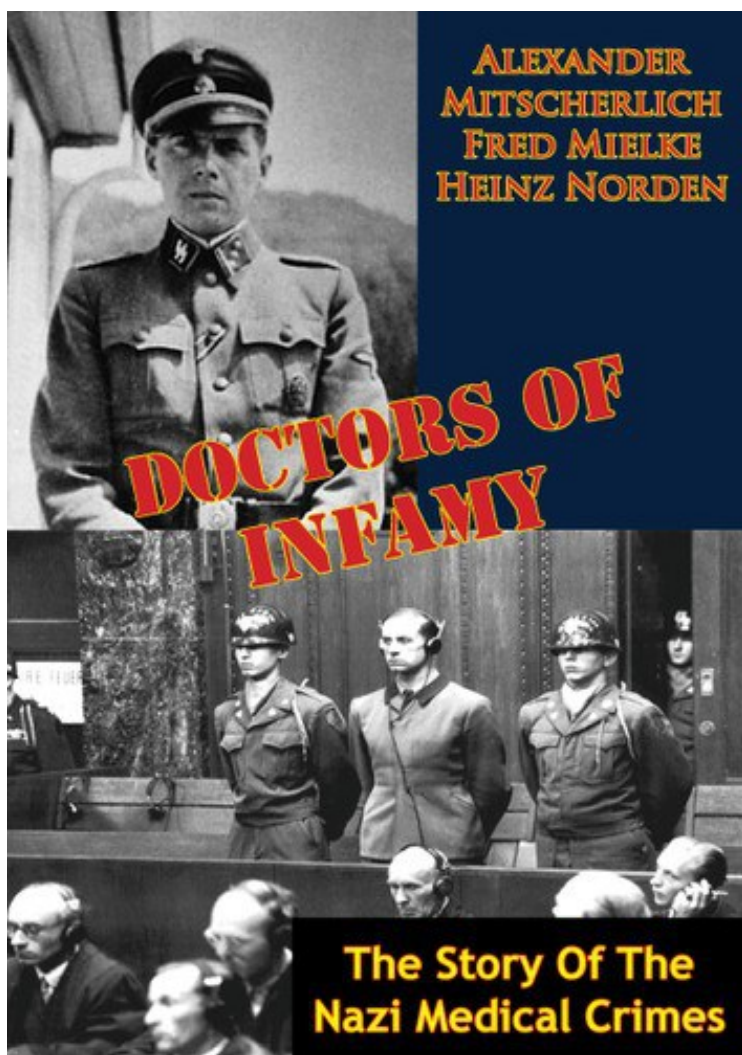
ホーファーご夫妻様

慎んで哀悼の意を表しつつ、お伝えしなければなりません。あなた方のお子様は去る1月22日肺炎のため急死されました。

・・・お子様は精神的に低い状態にあり、言葉は全く憶えず、当院入院中少したりとも進歩は見られませんでした。お子様は成長して有用な人間になることは、まずあり得ないでありましょうし、施設での世話を必要とする状態が終生続くであります。このような安らかな死が解決をもたらしたことをせめてもの慰めとされるよう、衷心から申し上げます。

医師・医学評議委員長 イリンク

T4作戦の結末 (1) ニュルンベルク医師・看護師裁判



ナチ時代の患者と 障害者たち

Kranke und behinderte Menschen im Nationalsozialismus
—ドイツ精神医学精神療法神経学会 (DGPPN) 移動展覧会—
"erfasst, verfolgt, vernichtet." より

第 111 回日本精神神経学会学術総会
(大阪 2015 年 6 月 4 日 - 6 日)

本展覧会では 40 枚の掲示ポスターにそれぞれ日本語訳を添付しました。
このパンフレットは、それらのなかから図と説明文を
抜粋・構成して作成されています。

協 力

ドイツ連邦共和国大使館
神奈川県立精神医療センター

T4作戦の結末 (2) シュピーゲルグルント医師・看護師裁判



1946年ウィーンの国民裁判所に小児安楽死の罪状で告発された3人の医師。
左から2人目ヒュプシュ、同4人目テュルク、右端施設長イリンク。

T4作戦の結末 (2) シュピーゲルグルント医師・看護師裁判



* エルンスト・イリンク; 施設長、主任医師
国民裁判所にて絞首刑

* マリアンネ・テュルク; 女医(女医にはあまり権限委託がなかった?)
イリンクの指示に従ったとして減刑。10年間禁固刑。毎年3カ月は厳しい環境にて過ごすことが義務付けられた。6年後恩赦出所。一旦剥奪された医師免許はウィーン大学から再授与されたが、医師として働くことはなく、薬草店店員としてひっそりと一生を終えた。

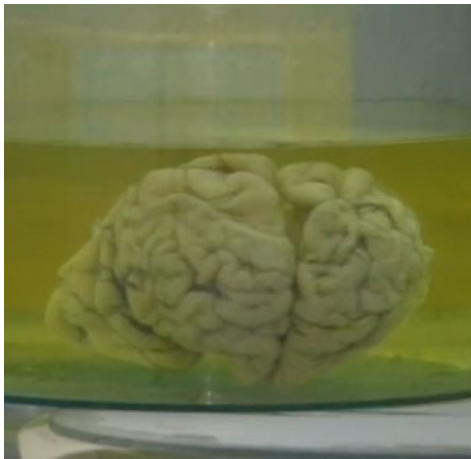
* マーガレット・ヒュプシュ; 女医(ハイル・ヒトラーの女医)

挨拶は常に「ハイル・ヒトラー」だったという証言。しかし小児殺戮行為には手を染めていない、さらにイリンクやテュルクのやり方には批判的であったという証言があり、無罪。その後医師として働き、医学参事官、欲しかった主任教授Primariaを与えられた。

* アンナ・カチェンカ; 看護副師長

裁判で20人の安楽死を幫助した、辛い仕事だった等証言。有罪で懲役8年。しかし4年で保釈。以後模範的看護師として表彰された。

* その他判明したこと: シュピーゲルグルントの医師、看護師の俸給は格段に高かった。戦後多くの看護師が逃亡し、隠れた。シュピーゲルグルント警備の警察官は安楽死を口外したためゲシュタポに逮捕され、東部戦線に送られ、終戦までソ連の捕虜となった。



生きるに値しない・・・医師ハインリッヒ・グロス

ナチス安楽死展

小児安楽死 ハインリッヒ・グロス医師

Ausstellung NS-Euthanasie
Lebensgeschichten

ザルツブルク 2008

WIEDERGEFUNDENE
LEBENSGESCHICHTEN
VON OPFERN
DER „RASSENHYGIENE“

Zwangssterilisierung
Kindereuthanasie
— „Am Spiegelgrund“
— Dr. Heinrich Gross
Aktion „T4“
Protest und Widerstand

AUSSTELLUNG
„NS-EUTHANASIE
IM LAND SALZBURG“

~~LEBENSUNWERT~~
生きるに値しない

Dr. Heinrich Gross



Dr. Heinrich Gross; Quelle: DÖW.

Einer der Ärzte der „Kinderfachabteilung“ war der aus Wien stammende Dr. Heinrich Gross, Jahrgang 1915. Er arbeitete ab 1940 in der Anstalt und war auch nach seiner Einberufung zur Wehrmacht 1943 zeitweise „Am Spiegelgrund“ tätig.

Nachdem er nach zweijähriger Kriegsgefangenschaft für einige Zeit untertauchen konnte, wurde er 1950 verhaftet und zu zwei Jahren Kerker verurteilt, aber nicht wegen Mord, sondern wegen Totschlags. Die

ザルツブルク州出身の犠牲者を悼んで

【ナチス・安楽死 **LEBENSUNWERT** (生きるに値しない Not worth living) 展】

2008年7月23日 - 11月2日 ザルツブルク美術館

医師グロス： 1915年ウィーン生まれ。小児神経科医。ナチス党員

1940 - 1943年シュピーゲルグルトで小児安楽死に携わった

1943 - 1945年兵役

戦後一旦刑事告発されたが、告訴は取り下げられた。

自由の身になったグロスは医師として研究者として成功の階段を昇った。

生きるに値しない・・・医師ハインリッヒ・グロス

[戦後直ぐの裁判]

グロス医師は戦後小児安楽死の罪で裁判にかけられ、2年間の禁固刑に処せられた。判決理由は殺人ではなく、確定故意による致死であった。刑法理論では、被告には精神病患者または精神薄弱者に対し悪意を有する根拠を欠くので、殺人を犯す可能性は無い。最高裁判所はこのような点を矛盾であると指摘し、所轄裁判所に差し戻した。これを受けてウィーン検察は告訴を取り下げ、1951年彼は自由の身になった。



ABC News / Nightline 1998年 (米国) より引用

生きるに値しない・・・医師ハインリッヒ・グロス

[研究活動再開、政党へ入党、科学者協会に加入]

1951年グロス医師は直ちに神経学のキャリア研鑽を再開した。1953年社会民主党に入党し、同時に社会主義科学者協会に入会した。1955年には神経および精神疾患専門医の課程を履修し、上級施設医としてオッター・ワグナー病院に戻ったが、実にそこそ、1940-1945年小児専門部シュピーゲルグルントがあったところであった。彼はそこで神経病理学的研究に着手し、論文を次々に発表した。

[研究所設立、裁判鑑定医、勲章を授与]

1968年に彼は自ら企画した《ルートヴィヒ・ボルツマン神経異形成研究所》を設立し、所長に収まった(お手盛り)。加えてグロス医師は鑑定医でもあり、オーストリアで最も多忙を極めた裁判鑑定医であった。1975年彼は学術・芸術第一級栄誉勲章をオーストリア共和国から授けられた。

生きるに値しない・・・医師ハインリッヒ・グロス

[突然の告発]

1979年1月、グロス医師はザルツブルク大学で開催された学会で、“精神障害者の致死的犯罪”と銘打った講演会に演者として招待された。これは仕組まれたものであった。基調講演を”批判する医師の会”会員でウィーンの災害外科医、ヴェルナー・フォークトが行い、グロス医師にナチス時代の自身と直面するよう勧告した。

怒りに燃えたグロス医師は”批判する医師の会”を名誉毀損で訴えた。第一審でフォークト医師に浴びせられた激しい糾弾を、フォークトは多岐にわたる証拠を提出し、彼の主張の正しいことを証明した。裁判は1981年結審し、フォークト医師に無罪判決が下された。



生きるに値しない・・・医師ハインリッヒ・グロス

[瓦解と転落]

ハインリッヒ・グロス医師に対する刑法上の結論は、これとは無関係だった。彼が1981年に起こした控訴審の中で、ウィーン高等裁判所は小児安楽死に彼個人が関与していたことは明確であると判断したが、それでも刑事訴訟手続きは開始されなかった。

”憎悪や金銭問題など卑劣な動機が否認された場合”、安楽死行為は殺人ではなく、致死行為とみなされると、裁判官全員の見解が一致した。それに従いグロス医師の戦争中の行為には時効が成立した。

グロス医師は同年高齢のため公職からの引退を余儀なくされたが、程なく社会民主党を除名された。1988年には社会主義科学者協会を除名され、学術・芸術第一級栄誉勲章を剥奪された。ルートヴィヒ・ボルツマン研究所は辞任に追い込まれた。裁判鑑定人だけはその地位に留まった。

生きるに値しない・・・医師ハインリッヒ・グロス

[地獄に墮ちた]

1997年末になってようやく、オーストリア司法当局は法律上の見解を見直し、一旦棚上げにしたグロス問題を殺人で再告訴する手続きを始めた。しかし告訴がなされることはなかった。80歳を越した老精神科医は認知症が進み、公判に臨むことは不可能であると公表された。

2005年ロシアで発見された公文書は彼に重くのしかかった。ハインリッヒ・グロス医師は同年、その文書を目にすること無く、法の下に裁きを受けることもなく、この世を去った。

神は死んだ彼に鉄槌を下した。

「生きるに値しなかった」と。

6 Salzburger Nachrichten

GERICHT & RECHT

Gross-Prozess geplatzt

Richter: „Sie waren doch ein Leben lang Psychiater! Können Sie dem Gutachten über Ihre Person nicht folgen?“ Heinrich Gross: „Ich verstehe es nicht.“

RONALD ESCHER

WIEN (SK). Dieser bemerkenswerte Wortwechsel zwischen dem Vorsitzenden des Wiener Geschworenengerichtes, Richter Karlheinz Seewald, und dem angeklagten 84-jährigen Heinrich Gross war in dem kaum einstündigen Auftritt des ehemals wohl meistbeschäftigten psychiatrischen Gerichtsgutachters der Zweiten Republik enthalten, der sich insgesamt auf wenige Worte beschränkte. Dann kam das Gericht zum Ergebnis:

Der mit Spannung erwartete Prozess im völlig überfüllten Saal 303 des Straflandgerichtes mmas „Jugbochen bzw. auf unbestimmte Zeit vertagt“ werden. Grund: Der Gesundheitszustand des Angeklagten, der laut psychiatrischem Gutachten aufgrund einer fortschreitenden geistigen Demenz derzeit nicht verhandlungsfähig sei.

Darmit platze ein Prozess, von dem sich die Öffentlichkeit – nicht zuletzt die Angehörigen der Opfer und die Überlebenden – ein Stück Aufklärung über die Vorgänge in der „Wiener städtischen Nervenklinik für Kinder Am Spiegelgrund“ während der nationalsozialistischen

mehreren Fällen eindeutig die Verwendung von Schlafmitteln nachgewiesen werden können.

Der Ankläger glaubte beweisen zu können, dass Heinrich Gross im Sommer 1944 wesentlichen Anteil an den Todesbeschlüssen an neun günstig bzw. körperlich behinderten Kindern hatte: Ein Ausschnitt nur aus den menschenverachtenden „medizinischen“ Vorgängen „Am Spiegelgrund“, denen laut neuesten Untersuchungen insgesamt 798 Kinder zum Opfer gefallen waren. Gross habe, so hieß es, dadurch zu den „Euthanasie-Tö-

Sessel in sich zusammen und verschwand förmlich unter seiner Schirmmütze, unberührt vom Blitzlichtgewitter der Fotografen.

Während Zuhörer sowie in- und ausländische Journalisten und Fotoamateurs um einen Platz in dem nur für 40 Personen zugelassenen Verhandlungssaal kämpften, wurde Gross über das Beratungszimmer in den Saal geschleust. Dort ließ er sich schwer auf die Anklagebank niedersinken, rückte immer weiter nach außen und umklammerte die Lehne, genau beobachtet von den drei medizinischen Gutachtern.

Denkleistung und einem verminderten Gedächtnis“, sagte der Gutachter. Gross habe damals aber Aktivität und Interesse gezeigt. „Wenn man zur Sache selbst gekommen ist, sagte er: ‚Daran kann ich mich nicht erinnern‘“, so Haller. Der Gutachter meinte, mit dieser Strategie hätte der Angeklagte einen wenig differenzierten, psychiatrisch nicht geschulten Menschen vielleicht täuschen können, er müsse aber gewusst haben, dass dies bei einem Spezialisten wie ihm nicht gelte.

Die zweite Untersuchung in der vergangenen Woche brachte laut Haller einen „klischierten Eindruck von einem fortgeschrittenen Krankheitsverlauf“. Der Gutachter: „Er wirkte abgelehnt.“

Haller wollte es genau wissen und versuchte auf verschiedene Arten und Weisen die Demenz nachzuweisen. „Ich konnte ihn mit drei Methoden untersuchen. Bei zwei Verfahren ergab sich jeweils eine eindeutige Demenz, bei der dritten war es an der Grenze zwischen leichter und starker Demenz.“ Die Computertomographie ergab ebenfalls einen fortgeschrittenen demenziellen Prozess. Haller: „Die Gesamtschau der Befunde macht es unmöglich, das vorzuspielen.“ Gross könne dem Verfahren höchstens fünf bis zehn Minuten folgen.

„Körperliche Anwesenheit allein genügt nicht“

Daraufhin stellte der Verteidiger den Antrag, die Verhandlungsun-

Das Gericht erschien: „Heir Dr. Gross, können Sie mich verstehen?“ Antwort: „Schlecht, ein bis-



Sein Name ist Heinrich Gross – und er weiß von nichts.

BAG STUPFA

“生きるに値しない”グロス医師・・・決定的証言



イエキリウス医師の尋問調書2005年モスクワにて発見

「・・・1941年私と部下のグロスは、障害児の殺戮作業に取りかかった。グロス医師は小児を死に至らしめるという、実践的課題の研修を修了していた。グロス医師に助手を務めさせ、私たちは毎月6人から10人の子供を殺した。」

「小児殺戮作業はグロス医師が研修で得た手技と、私の指導に従って進めた。ルミナール(フェノバルビタール)を直腸から小児体内に投与すると被験者は直ちに睡眠に入り、20～24時間続く。その後ほぼ必然的に死に至る。少数だが投与量が十分でない場合があり、その際グロス医師は私との申し合わせに従い、モルヒネベースのカクテル剤を注射することで、目的を果たした・・・」

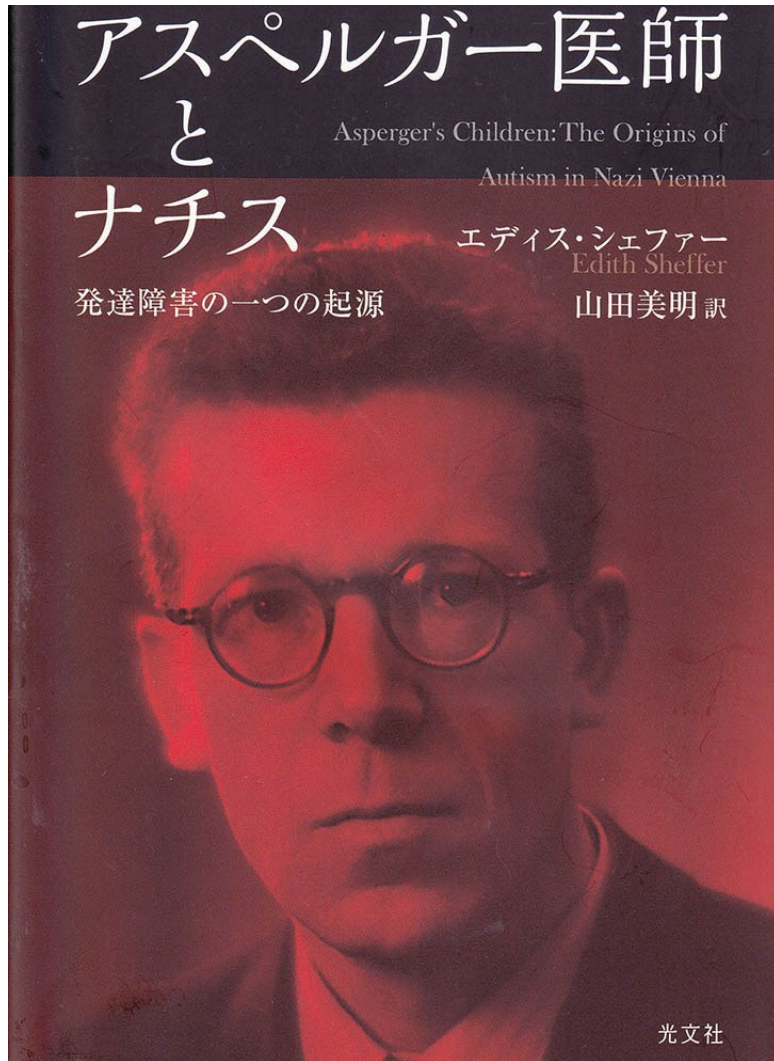
イエキリウスの尋問で、数千人の成人患者が専用施設で大量安楽死に遭ったらしいことも、判明した



イエキリウス: 医師 少年養護施設Spiegelgrund所長。ヒトラー妹の婚約者。ナチ党员。グロスの上司。ソ連に拘留され、懲役25年。1952年病死。

Dr. med. Hans Asperger, Kinderarzt

小児科医 ハンス・アスペルガー



シェーファーはアスペルガーとシュピーゲルグルントとの関係を、「疑わしい」としか言い切れなかった。

アスペルガーを告発する人

エディス・シェーファー(アメリカ人)
欧州問題研究員

アスペルガーは敬虔なカトリック教徒、目立たない存在だった。小児科の中で出世欲も特になかった。恩師ハンブルガー教授(ナチ党员)を尊敬していたが、ナチには入党しなかった。治療教育(Heilpädagogik)施設長に抜擢された(後述)。

所属はウィーン大学小児科であったが、ウィーン市が障害児をあちこちの収容施設へ分散収容する査問委員会を募集したとき、応募した。給与が良かったからと推測される。その査問委員会において様々な障害児、問題児を鑑定し、各地の施設に送った。シュピーゲルグルントのことは極秘であったが、そういう立場上、ある程度のことは知っていたと想像しても無理はない。

終戦後ウィーン大学の医師の非常に多くが公職を追放された。しかしアスペルガーは留まり、一時的に診療部長を任命されていた。その後正式に小児科教授に任命された。



MEDIZINISCHE
UNIVERSITÄT WIEN ウィーン医科大学

アスペルガーを告発する人

Herwig Czech übernimmt Professur für Geschichte der Medizin an der MedUni Wien ヘルヴィヒ・チェク医学史学教授

Zeithistoriker mit besonderer Expertise zur Medizin im Nationalsozialismus ナチス政権下の医学史を
専門とする歴史学者

[Home](#) > [Über Uns](#) > [News](#) > 2020 > Herwig Czech übernimmt Professur für Geschichte der Medizin an der MedUni Wien

04.05.2020 – MENSCHEN DER MEDUNI WIEN

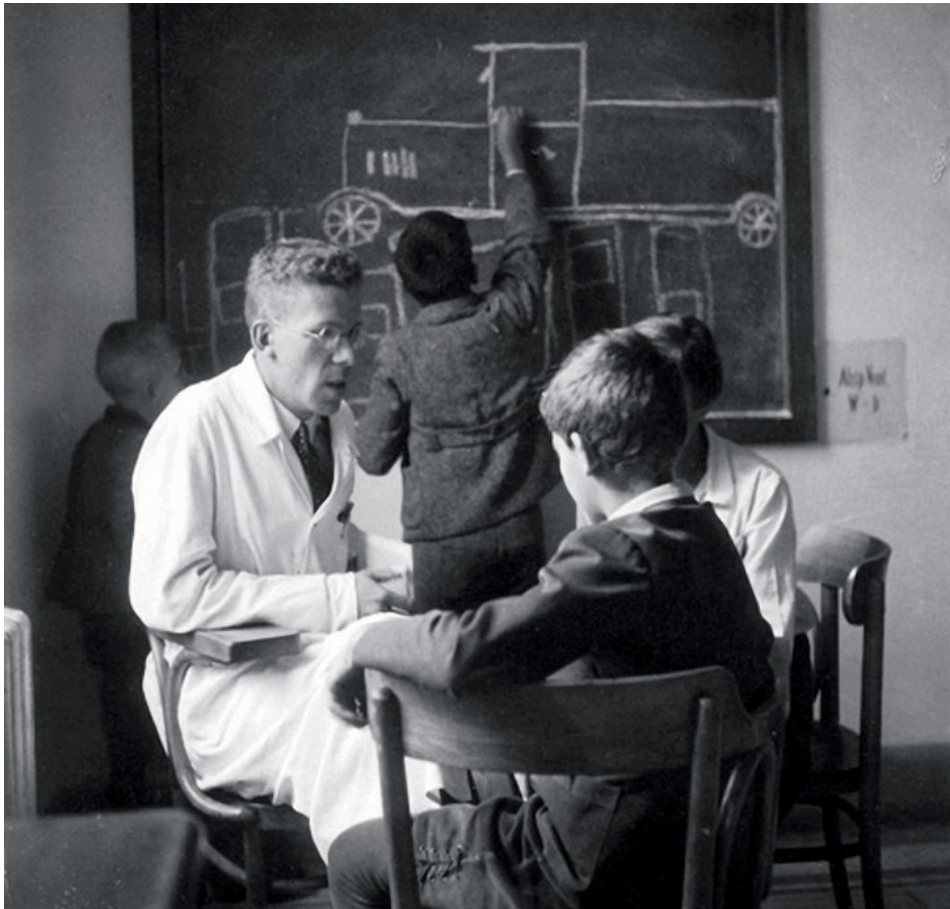


歴史研究者。ナチスの許されるべきでない医療への介入、悲惨な運命をたどった犠牲者の運命を白日の下に暴き続け、共著を含め約200の論文を発表している。オーストリアが永世中立国として世界の信用を得るには、彼のような仕事は欠かせないものであり、国家が支援する。

アスペルガーの「治療教育研究所」

「教育学 Pädagogik」……子供を教育する(知性情操両面の)

「治療教育学 Heilpädagogik」…(主に精神、知的面の)障害児を教育する



日本でも2006年以降徐々に整備されてきた特別支援学級に似た教育施設が、20世紀初頭からドイツ語圏諸国にあり、そこでの障害児教育を治療教育学 Heilpädagogik と称した。

治療教育をする資格者も養成されていた。アスペルガーが自閉症児の存在に気付き、論文を作成したのは、このような施設であった。

皮肉なことに障害児を集める治療教育施設は”教育不能”な小児を安楽死させる施設として悪用された。

アスペルガーはシュピーゲルグルトに在籍したことはなかった。彼は治療教育施設や養護施設に小児を送るか否か、鑑定する側だった。

アスペルガーの「治療教育研究所」

彼が在籍したウィーン大学小児科には治療教育研究室があり、そこで彼は子供たちを観察した。



当時のドイツやオーストリアでは、病院に入院すると患者は広い病室に並んだベッドに終日横になることを強いられた。それは小児科病棟でも同様であった。

治療教育 Heilpädagogik では患者の**子供達は自由に振る舞うことが原則だった**。医師や看護師は**子供たちの不思議な行動を観察するのが仕事或いは研究であった**。例えば大声を上げて大騒ぎしたり、一人で何時間も同じことに興味を持ち、毎日飽きることなく何かにこだわったり、数字に関することを憶えるのが驚異的であったり、昆虫に関する書物を読破したり。

このような患者観察法は現代では特別珍しいものではないと思われるが、当時は画期的な診察法であり、ドイツ語圏以外ではあまり見られなかったと言われる(未確認)

アスペルガーの鑑定書 Czech論文より抜粋

エリイという5歳の少女の鑑定書 1941年10月
(写本なので署名が無い)

脳炎後遺症、知的障害、感情興奮、反抗、泣き叫び暴れる、著しい言語発達障害

二人の医師が鑑定。狭い部屋にエリイと共に親子7人が住む。騒がしくて気持が休まらない、家事が出来ない、暴れるので怪我の危険等々。母親はエリイを今日明日にでも施設に入れてくれと懇願し、両医師は同情する。そこで鑑定書は、

Dr. Mekuln: 言葉は全く遅れて改善は期待出来ない。・・・法に従ってエリイをシュピーゲルグルントに引き渡すことを求める。

Überstellung、beantragt; 役所用語、冷たい。

Dr. Asperger: 言葉は徐々に喋れるようになっている。・・・急ぐのであれば、シュピーゲルグルントは考慮の対象になるかもしれない。

Am ehestend käme der "Spiegelgrund" in Frage. 非常に慎重に言葉を選んでいる。

Ueberstellendes Amt:
BJA.141/XXI., AmSpitz 1.

Abschrift v.d. Küst: 17.11.1941.

Mj. Schreiber Elisabeth, geb. 9. X. 1936, r. K., Wien, Pfarre Allerheiligen.
Kv. Schreiber Franz, geb. 4. 8. 1910, Ulrichskirchen, H.A.,
Wien, 21., Stammersdorf, Bahnhofplatz 5.
Km. Schreiber Anastasia, geb. Hochleitner, geb. 10. 1. 1910, in Traisen,
Pfarre Lilienfeld, Hauscart, Adresse wie Kv.
v. Ge. Schreiber Johann u. Rosina, beide gestorben.
n. Ge. Hochleitner Josef u. Helene, Gv. gest., On. wird vom Sohn erhalten
u. Haushalt, Kreis, Wienerstrasse 27.
Geschwister: Hochleitner Gabriele, geb. 28. 3. 1938, Stammersdorf, Bahnhofpl. 5.
" " " Schreiber Franz, geb. 2. 4. 1938 Wien, Stammersdorf, Bahnhofpl. 5.
" " " Schreiber Leopold, geb. 6. 10. 1939, " " " " "
" " " Schreiber Helga, geb. 14. 6. 1941, " " " " "

Ueberstandene Krankheiten des Kindes: Morbillen, Scarlatina, Diphtherie,
Grippe, Stumm, war in Rotes-Kreuz-Spital, Mautner-Markhof-Spital.
Kv. Epileptiker.

Ueberstellungsgrund: Deblilität.

Mj. 5 Jahre alt, kann noch nicht sprechen, ist debil, sehr bochhaft, guttmunde
gefährdet die kleineren Kinder. Km. ist Hauswart, hat wenig Zeit,
sich mit den Kindern zu beschäftigen. Die Wohnung besteht aus
Zimmer und Kabinett, sehr klein, 2 Erwachsene und 5 Kinder. Km. ist
nicht möglich, das Kind in Eigenpflege zu behalten.
Kv. ist Epileptiker, sonst keine Krankheiten in der Familie.

BJA 21/E
Abschrift des Erziehungsberatungsgutachtens vom 4. 11. 1941.

Im Sinne des Gutachtens der heilpädagogischen Abteilung der
Kinderklinik wird Ueberstellung auf den Spiegelgrund beantragt.
Dr. Mekula o. h.

Abschrift des Gutachtens der Univ. Kinderklinik Wien

Erethische Imbezillität, wahrscheinlich auf postencephalitischer
Grundlage: Salivation, "encephalitische" Affekte, Negativismus, be-
trächtlicher Sprachrückstand (beginnt jetzt langsam zu sprechen)
bei relativ besserem Verständnis. Das Kind ist in der Familie, bes-
sonders bei den gedrängten räumlichen Verhältnissen, zweifellos
eine kann erträgliche Belastung und gefährdet durch ihre Aggre-
sionen auch die kleinen Geschwister. Es ist daher begreiflich, dass
die Mutter auf Unterbringung drängt. Am ehestend käme der "Spiegel-
grund" in Frage.
Wien, am 27. X. 1941. Dr. Asperger, o. h.

「アスペルガーはナチスの走狗ではなかった」

アスペルガーを擁護する人々

アスペルガー略歴：ウィーン医科大学小児科勤務、ウィーン市立病院小児科勤務 1943年- 兵役

Monatsschrift
Kinderheilkunde

月刊小児科 (Springer社)

Hans Asperger und die Heilpädagogik ハンス・アスペルガーと治療教育

Monatsschr Kinderheilkd
2020 · 168 (Suppl 3):S176–S187
<https://doi.org/10.1007/s00112-020-00948-2>
Online publiziert: 13. August 2020
© Der/die Autor(en) 2020



Werner Maleczek¹ · Peter Malina · Ernst Tatzer · Franz Waldhauser

¹Institut für Österreichische Geschichtsforschung, Universität Wien, Universitätsring 1, Wien, Österreich

ウィーン大学歴史研究所

Hans Asperger, Leben und Wirken 1931 bis 1946

ハンス・アスペルガー、人生と軌跡 1931–1946年

Er war kein Handlanger der NS-Kindermörder vom „Spiegelgrund“

“シュピーゲルグルント” でなされた
ナチスの小児殺人に、彼は手を貸していない

Aspergers Prägung durch den Bund Neuland

Hans Asperger (1906–1980) stammte aus dem Wiener kleinbürgerlichen Milieu; die Familie hatte Wurzeln im

war, sollte 1942 in Russland fallen. Aspergers Jugendzeit war geprägt von seiner Leidenschaft für das Lesen, aber noch viel mehr vom „Bund Neuland“, einem Flügel der österreichischen katholischen Jugendbewegung. Diesen hatten die cha-

städten im Milieu der Gymnasien und der Hochschulen verschafften ihm jedoch erheblichen Einfluss. Prominente Persönlichkeiten der Zweiten Republik wurden wie Asperger durch ihn geprägt, so etwa die Politiker der Österreichischen

アスペルガーを批判する Czechの論文

【要約】

国家社会主義(ナチズム)の思想に反対するアスペルガー、ナチスの「安楽死」や民族浄化政策に対し果敢に患者を守ったと言われる擁護者アスペルガーは、残された文書をどのように検索してもそれを証明する事実に行き着かない。浮かび上がったのはむしろ、この自閉症研究先駆者の様々な問題行動、発言、記録の数々である。彼の名を冠したままの自閉症研究は、ナチス時代のウィーン研究を誤った方向に導く危険がある。

(安楽死に加担した明確な証拠はなかった)

Czech, Herwig (2018). Hans Asperger, National Socialism, and “race hygiene” in Nazi-era Vienna. *Molecular Autism* vol. 9, 1-43

アスペルガーを擁護する Kinderheilkundeの論文

【アスペルガーの鑑定(抜粋)】

シュピーゲルグルントで安楽死に遭った789人の小児のうち、アスペルガーは7人の鑑定書を提出している。一人には「場合によってはeventuell シュピーゲルグルント」、別の一人には「急ぐならばシュピーゲルグルントは検討対象かもしれない」と記載した(既述)。後者だけが数ヶ月後シュピーゲルグルントに送られた。

脳炎とジフテリアに罹患した3歳のヘルタは母親が家庭医シュミットに相談し、シュミットは専門医アスペルガーの鑑定に委ねた。アスペルガーは「シュピーゲルグルントで療養は、狭い家で母と5人の子供の環境を考慮すると已むを得ない」と、手書きの鑑定書を残している。しかし厳密に言えば患者を6ヶ月後シュピーゲルグルントに送ったのは、家庭医シュミットである。

英国の精神科医ローナ・ウィングによってアスペルガー症候群が世に知られたのは1981年。その後の短い時間の中でアスペルガーはなぜ神格化され、美化され、そして批判に晒されたのだろうか？



Seit 2003 erinnern die Lichtstelen des „Mahnmals für die Opfer am Spiegelgrund“ auf dem Grünareal vor dem Theater des Otto-Wagner-Spitals an jedes der dort getöteten Kinder. BILD: SNIPPFA

Unbrauchbar, unerziehbar, lebensunwert

Nazi-„Medizin“. Das Otto-Wagner-Spital ist ein Krankenhaus mit dunkler Vergangenheit: Hier befand sich der „Spiegelgrund“, die zweitgrößte Anstalt für Kinder-Euthanasie der Nationalsozialisten. Und noch viel mehr.

ALEXANDRA PARRAGH

WIEN (SN). Noch ist der Krankenhausbetrieb voll im Gange. Bis 2024 sollen jedoch sämtliche Abteilungen des Otto-Wagner-Spitals (OWS) auf der Baumgartner Höhe abgesiedelt und in andere Krankenhäuser eingegliedert werden. Unklar ist, was dann mit dem Gedenkweg, dem Mahmal vor dem Theater und der Gedenkstätte passiert, wenn es die vom gleichnamigen Architekten Otto Wagner 1907 errichtete Heil- und Pflegeanstalt „Am Steinhof“ nicht mehr gibt. Sie erinnern daran, was sich hier zwischen 1940 und 1945 befand: die zweitgrößte Kinder-Euthanasie-Anstalt, der Spiegelgrund.

Aber nicht nur, wie Herwig Czech, Historiker des Dokumentationsarchivs des österreichischen Widerstandes (DÖW), betont, das für die Gedenkstätte zuständig ist. Hier befanden sich außerdem die NS-Heil- und Pflegeanstalt mit Psychiatriepatienten, die gleichermaßen von NS-Regime als „unbrauchbar oder lebensunwert“ eingestuft und umgebracht wurden, sowie die Arbeitsanstalt für asoziale Frauen und Mädchen. „Außerdem gab es noch die Fürsorgeanstalt am Spiegelgrund, in die Kinder aus schwierigen sozialen Verhältnissen kamen“, so Czech.

Im Herbst wird 1940/41 der zwölfjährige Friedrich Zawrel gebracht, nur die Schule regelmäßig schwänzt, weil er den Spott seines Klassenlehrers – „ein strammer Nazi“ – und einer Klassenkolle-

gen satt hatte. „Mein Vater war Alkoholiker, als solcher ‚weh unwürdig‘. Deshalb konnte ich als Einziger meiner Klasse nicht zur ‚Hilfsgang‘“, beschreibt der heute 84-Jährige sein damaliges ‚Vergehen‘. Es hat ausgereicht, um bis zum Kriegsende von einer NS-Erziehungsanstalt in die nächste verfrachtet zu werden. Und auch noch Jahrzehnte nach Kriegsende 1945 mit der Begründung ‚erb biologisch und sozial minderwertig‘ weggesperrt zu werden.

Über 500 Mal hat Zawrel schon seine Geschichte Schulklassen erzählt: Wie er immer wieder ausbüxt, weil er schikaniert, geprügelt, gequält wird. Was es heißt, täglich strammzustehen und nur mit „Jawohl!“ antworten zu dürfen. In der Früh wie ein Gefangener antreten, arbeiten, putzen, marschieren zu müssen und dann nicht einmal schlafen zu dürfen.

Der Todespavillon 15

Mitten in der Nacht wecken ihn die Erzieher auf – es sind Kriegsverwehrte der Wehrmacht und der Waffen-SS –, um ihn und seine Zimmergenossen abzuprüfen. Zawrel erinnert sich, wie sie alle bestraft werden, weil er auf die Frage, wie die Mutter des „Führers“ heißt, „Klara Pözlinger“ statt „Klara Pözl“ antwortete.

Bis vor Kurzem traf sich Zawrel mit den Schülern noch direkt in der Gedenkstätte, die 2002 in einem ehemaligen Wirtschaftsgebäude des OWS genau gegenüber dem Steinhof errichtet wurde. Genau dort, wo einst die Kinderpsychi-

atrie, also die NS-Kinder-Euthanasie-Abteilungen, war. Jetzt, wo ihn seine Füße nicht mehr tragen, besuchen ihn die Schüler im Seniorenheim. Für April hat sich bereits eine Klasse angesagt.

Ein Federtrich entscheidet über Leben und Tod.



Herwig Czech, Historiker

Ihnen wird Zawrel mit Tränen in den Augen dasselbe erzählen wie den SN: „Was hier passiert ist, können sich Menschen, die 30, 40, 50 Jahre später geboren wurden, nicht vorstellen.“

Sie können sich aber zumindest in der Gedenkstätte Steinhof oder im Internet (www.gedenkstaette-steinhof.at) darüber informieren, wie es zur Judenverfolgung, dem Rassenwahn und der systematischen Tötung von behinderten Erwachsenen und Kindern im Dritten Reich kam. Was die Aktion „T4“ war, benannt nach der Tiergartenstraße 4 in Berlin. Und warum es ab dem Jahr 1939 eine Meldepflicht für Neugeborene, Kinder und Anstaltspatienten mit Missbildungen, Behinderungen und psychischen Störungen gab. „Während der Gesamtaktion 1940 wurden Hunderte Formulare pro Tag über die Schreibweise von Psychiatern, die mit einem

Federtrich über Menschenleben entschieden haben“, erklärt Historiker Czech.

Auch Friedrich Zawrel wurde als „minderwertig“ eingestuft. Er überlebte nur, weil ihm eine Krankenschwester rechtzeitig zur Flucht verhalf. Insgesamt sollten mindestens 7500 Patienten des Otto-Wagner-Spitals der nationalsozialistischen Tötungsmedizin zum Opfer fallen.

Der Fall Heinrich Gross

Der Spiegelgrund verfolgt Zawrel nach Kriegsende weiter. 1975 trifft er als Strafgefangener ein zweites Mal auf jenen Anstaltsarzt, der ihn als Buben abgemessen, gewogen und fotografiert hat. Der Psychiater Heinrich Gross hat wie so viele andere mit NS-Vergangenheit in Österreich auch nach 1945 ungehindert Karriere gemacht. Er ist der erfolgreichste Gerichtsgutachter in den 1970/80er-Jahren. Seiner Expertise verdankt Zawrel, dass er damals in Haft bleiben musste. Gross steht deshalb 2001 vor Gericht, entkommt einer Verurteilung aber aus gesundheitlichen Gründen. „Der Spiegelgrund hat mein Leben zerstört, aber Hass oder Rachegefühle habe ich nicht. Mir ist nur wichtig, dass so was nie wieder passiert“, sagt Zawrel heute, mehr als ein halbes Jahrhundert später.

Das will man am Otto-Wagner-Spital auch. Dessen Verwaltungsdirektor Rainer Miedler ist sogar „Gross-gegner“. Er will den Spital auszubauen – unabhängig davon, dass das Otto-Wagner-Spital 2024, also in elf Jahren, zusperrten soll.

51 Schwerpunkt Schicksalsorte Österreichs



Spiegelgrund-Opfer Friedrich Zawrel beim 2008 das Goldene Verdienstzeichen des Österr. Staates erhalten. BILD: SN/AR



1907 eröffnete das Otto-Wagner-Spital als Niederösterreichische Heil- und Pflegeanstalt für Nerven- und Geisteskranke. 1940 wurde daraus die zweitgrößte NS-Kinder-Euthanasie-Anstalt. BILD: SN/AR



Heinrich Gross war erst NS-Psychiater und dann Gerichtsgutachter. BILD: SN/AR

シュピーゲルグルントの犠牲者慰霊 800本の灯明 オットー・ワグナー病院

↓ナチスの選別基準

役に立たず、教育不能、生きる価値なし

オーストリアの忘れてはいけ
ない使命

↓
永世中立国

↓
欧州国連本部を誘致

告発者チェック

過去を忘れないために、このような活動は、国家として必要とされている

ツアウレルはシュピーゲルグルントから奇跡的に生還した。彼はグロスと対決し、ウィーン市から功績メダルを授与された。

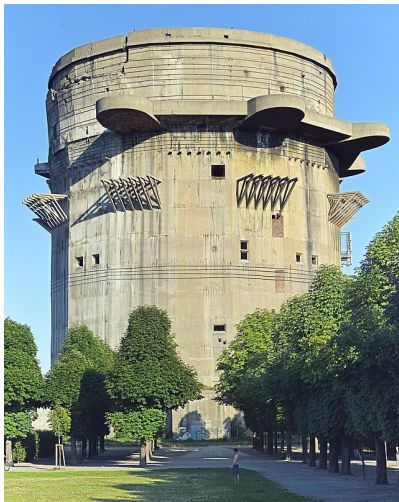
生きる価値ない医師グロス

オットー・ワグナー・病院正門

ウィーンに今も残る戦争の爪痕



繁華街のすぐ側に残る高射砲陣地



永世中立国としての倫理



都心にある旧市庁舎の1階にウィーン市立「ナチスの犠牲者、特にナチス医学の犠牲者を悼む記念館」がある。

ひっそりとしているが、由緒ある歴史的建造物の一角に設けられている。

同日、新市庁舎前のクリスマス・マーケットは多くの人で賑わっていた。



ナチスに隷属を強いられた 精神医学

= 小児安楽死の犯罪 =

- ハンス・アスペルガーの時代 -

ドイツ民族優生学 劣った遺伝子を絶つ
生きるに値しない者は消えてもらう
ナチスの下、ウィーンで800人の子供の命が消えた

福岡市精神科医会学術講演会

演者：船津邦比古（伊都の丘病院）

11月17日 水曜日 午後8 - 9時 ウェブ（Zoom）にて



MEDIZINISCHE
UNIVERSITÄT WIEN ウィーン医科大学

アスペルガーを告発する人

Herwig Czech übernimmt Professur für Geschichte der Medizin an der MedUni Wien ヘルヴィヒ・チェク医学史学教授

Zeithistoriker mit besonderer Expertise zur Medizin im Nationalsozialismus ナチス政権下の医学史を
専門とする歴史学者

Home > Über Uns > News > 2020 > Herwig Czech übernimmt Professur für Geschichte der Medizin an der MedUni Wien

< Alle News

04.05.2020 – MENSCHEN DER MEDUNI WIEN



(Wien, 04-05-2020)
Herwig Czech übernahm
mit 2. Mai 2020 die
Professur für Geschichte
der Medizin mit beson-
derer Berücksichtigung
der Medizinischen
Zeitgeschichte an der
Organisationseinheit
Ethik, Sammlungen und
Geschichte der Medizin
im Josephinum.

